

<p>横浜市小学校社会科研究会</p> <p>3 学年部会</p> <p>研修会記録 第5号</p>	<p>令和6年11月25日</p> <p>横浜市小学校教育研究会 会長 沼田 留美子</p> <p>横浜市小学校社会科研究会 会長 高畠 聡 同 学年部長 栗田 一輝</p>
---	---

<p>【提案日時】 10月 2日 (水)</p>	<p>提案 森下 夏帆 先生 (稲荷台小)</p>
<p>【会 場】 横浜市立 平沼小学校</p>	<p>司会 近藤 大介 先生 (釜利谷南小)</p>
	<p>記録 中村 勇斗 先生 (鶴見小)</p>

1 **提案内容**
みんなで守ろう！稲荷台のまち！～火災からまちの安全を守る～

2 **提案者より**
○単元について

- ・稲荷台小の学区は燃え広がりやすい地域ということで重点対策地域となっている。
- ・地域の町内自治会長のSさんが申請して新しいスタンドパイプ式消火器具が入荷されるということからスタンドパイプ式消火器具を取り上げた。
- ・導入では火災の写真を扱い、学校から調べ、後半はまちについて調べる単元の流れにした。

<手立てについて>

- ・学校編と地域編の間に、学習計画を見直す時間を設定した。
- ・児童の実態として、前向きに取り組む児童は多いが、自分の考えを伝えたり、ノートに書いたりすることが難しい子もいる。そのため、マグネットを活用することで、自分の考えを表現できる機会を増やしていった。

視点① (○成果 ●課題)

○体験学習をととても楽しみにしていて、体験活動で根拠をもった発言や問いを引き出せた。
○体験したことを資料にして話し合うことができた。
○地域に学習が移る時に学習計画を見直すことで、単元を見通す学習問題を意識することができた。

●学校編の時に、「誰が・どのように」を意識した学習問題や振り返りを行った。地域編の時も「誰が・どのように」の文言を意識して整理することですること、子どもたちが学習を追究やすくなったのではないかな。

視点② (○成果 ●課題)
本気の学習問題

スタンドパイプ式消火器具が増えれば、わたしたちのまちは安全といえるのかな。

について討論形式の授業にした。

○討論形式を4月から行って、授業に取り入れたことで資料を基に話せるようになった。今まで話せなかった児童も発表することができた。
○注目児童も調べたことや感じたことを根拠に発表することができた。
○ミニ黒板を活用することで児童の考えの変容が見られた。また、どうして変わったのかを子ども同士が話し合う場面も見られた。

●本時の中心資料の提示するタイミング。子どもの考えがそこで深まったかが疑問に残った。

3 協議会 (○成果 ●課題)

「社会的事象の意味等に迫る教師の出について」

- 体験をしたことによって、児童の防災意識が高まったと感じるし、学んだことを家庭でも話せば、さらに家族の意識も高まる。
- 防災訓練に参加している人数の資料を提示したときに、児童たちは自分事に考えられていた。参加している人数が35人だったのを見せたところで「これでまちを本当に守れるのか？」と揺さぶることで次時に活かすことができた。
- 資料を見せた反応を見ると、驚いている反応が見られた。子どもたちは、「本当に使い方を知ってほしい大人」に伝わっていないということに気付いているから、大人に分かったことを伝えるきっかけになったと感じる。
- 道具はあるけど、使い方を知らないと町を守れないという危機感が生まれたのではないか。小学生ができることは、分かったことを他の子やお家の人に伝えていくことで、大人にひろげられる気持ちをもつきっかけになる資料だった。
- 町内会長のSさんのどうしてスタンドパイプ式初期消火器具を増やしたのかについて話を聞けたらよかった。

<講師の先生より> 大曽根小学校 副校長 中野 直茂先生

①既習内容をいかす

まち調査を通して、稲荷台のまちが狭く、住宅密集、坂だから重点地域になっていたり、スタンドパイプが必要だったりというのを実感できている。

学校からまちへ学習を移行した際に、「誰が どうやって火を消している」というのが統一されているので、まちと学校を比較でき、事実や思考が明確になっている。

②注目児童への丁寧なみとりによる学びの深まり

A児は自分の考えを分かりやすく伝えられており、学級全体の気付きにもつながった。

B児は体験を通して自分の考えをもつことができた。

つばやきについてふれていくようにすると学びが深まる。

③二つの立場から考える学習問題

立場を明確にすることで、考えを整理して自分の意見をもつことができていた。

比較を通して事実の捉えが明確になっていた。

どちらが正解ではなく、話し合いで視点が明確になっていくようにする。

④中心資料と教師の出

子どもたちが体験や資料を通してどう捉えたかを問えばいい。インプットしたことを子どもが言葉にすることで、自分や周囲に返っていく。

⑤社会情動的コンピテンシーをはぐくむ社会科

メタ認知 他の人の考えを見つめなおしているか

好奇心 もっと知りたいと思うか

知的謙虚さ 人の意見をじっくり聞いて、自分の考えがまとまるか

共感性 友達が言ったことを、なぜそれをしたり言ったりするか理解できるか

この4項目を社会科の授業で育てているかを授業づくりの視点にしてほしい。

文責 中村 勇斗 (鶴見小学校)